

- ◆ 委員長：中澤信夫（議長）
- ◆ 事務局：熊谷一樹 書記：加藤文弥 中山遼平
- ◆ 出席者（順不同）：児玉萬平 浅野英彦 伊藝徳雄
- ◆ 19:00 開会 / 21:00 閉会

【協議事項】

- ◆ 今後の委員会開催について
  - ・ 事務局が早めに日程の案内
  - ・ 年間のスケジュールを組むのも有りではないか？（中澤）
  - ・ 案内の問題より参加者の都合が悪いことが多いのではないか。（浅野）
  
- ◆ 今後の委員会の展開について
  - ・ インビテーションをもらったレースを多くのセーラーに展開する。
  - ・ 学生マッチ&U25大会開催に協力をしていく。
  - ・ 学生、及びディンギーセーラーのキールボートの世界への吸い上げ。
  
  - ・ ディンギー系のセーラーが、マッチレースを通してキールボートを始めるという道筋はできて来ている。（児玉）
  - ・ 外洋系の学生セーラーの吸い上げがまだ甘いように感じる。（児玉）
  - ・ 地方を含めてヨットを持っている人は多いのでつながりを作るように委員会として働きかける必要があるのではないか。（児玉）

セーラーズイベントについて

- ・ 葉山のクラブレース（セールレーシングカップ）とジョイントして、キールボートレース体験イベントを開催したところ、学生マッチ経験者や元インカレセーラーら4名の参加者があった。（伊藝）
- ・ 話題性もあり、フェイスブックでは4000件程ヒットしている。
- ・ スポンサーにもメリットがあり、ヨット的环境を探している人にとウィンウィンな関係があるのではないか。
- ・ 博多からの参加者もおおり、地元でも行ってほしいという気持ちをぶつけてくれた。
- ・ 2~3年とイベントを続けるうちに、ヨットを継続する人が増え、つながりも増しているので継続していきたい。
- ・ 死亡及び傷害保険について、JYMAとイベントで担保できるように準備している。
- ・ 全国でセーラーズイベントを行うことができれば、地域ごとにヨットをする人が増えていくのではないか（全国で一斉に行えばメディアにも取り上げてもらえるのではない

か)。

- ・ 現在は20～40代の年齢制限をもうけている。若い世代はジャパンカップやミドルボートといった目標をもって活動しているチームに入りたいと思っている。同様に「上手くなりたい」、「勝ちたい」と思っているため、アグレッシブに活動しているチームでないと、チームの紹介としても難しくなる。(あるいは、チームでなくてフリートを通して紹介する形の方が良いか?)
- ・ 今後はネーションズカップへの派遣や学生マッチ以外の働きかけもしていく必要がある。次回の委員会でも引き続き協議したい。
- ・ 全ての世代の人から意見を聞き、ディスカッションを継続するべきだろう。(伊藝)

◆ ISAF ネーションズカップ・グランドファイナル出場報告(中山)

- ・ 上位のロシア、オーストラリア、フランスとはボートスピードとスタートのハンドリングから負けていた
- ・ レースが進むにつれてクルーワークの質も上がってきたが、ランキング上位については1勝も挙げることはできなかった。
- ・ 当初の目標は3位入賞であったが結果は9チーム中6位となってしまった。
- ・ 資金についてはJSAFからエントリーフィーと海外保険の支援援助を頂いての出場となった。
- ・ 今回の大会でおわることなく、次のステージを目指して取りくみを続けていきたい。

【報告事項】

◆ 8/29 理事会の報告(児玉)

- ・ JOC, IOCからの要請に基づき、JSAFアスリート委員会の設置を決定した。
- ・ アスリート委員会メンバーの選考基準は未定。
- ・ JSAF主催者保険について見直しを検討している。

◆ 韓国で9月9日~13日に開催されるキールボートの国際レースの招待があったが、時間がないため出場艇の斡旋は間に合わなかった。

◆ 2/6開催予定の外洋合同委員会(大阪)に当委員会からも1-2名を派遣します。

◆ 次回委員会の開催日:未定、決定次第web公開及びメール配信します。

◆ 議事録作成者:加藤文弥 中山遼平 議事録署名人:中澤信夫